

One's Stage

ひとりひとりが輝き

Calm Space

その人にあつた心地よさを創る



同じ姿勢で時間を過ごすことはとてもつらいことです。

見えるものや聞こえること、匂いや光の感じ、
ふれるものがいつも一緒だから。

私たちのできることは決して大きなことではないけれど、
生涯を通じて生きていきたい場所や仲間を見つけ、
自分で選ぶことや思うことが形になっていくこと、
願えばきっと叶うことを感じていただきたいと思っています。





星野真衣
ほしの まい
支援スタッフ

全ての縁は、理想的な『暮らしの在り方』へ

八王子市療育センターはどんな場所？

風通しの良い場所です。職員の雰囲気も良く、皆の個性を活かして幅広い活動を行っています。退職したスタッフや教育実習等を経て来てくれる方など、多くのボランティアも関わっており、イベント開催の時などは、いつも声を掛けさせてもらっていますが、こうして人との縁が繋がっているのは、本当にありがたいことです。



他者（=ユアベース）を思うことや、人と関わり続けることこそが、自己を成長させる

星野さんは普段ここでどんなお仕事を？

ご利用者さんの日常生活支援です。もちろん医療的ケアが必要な方には、適切なケアも担当します。また、イベントの企画や開催なども行います。ご利用者さんが日々の生活や人生をより充実したものにしていただけるよう常に意識しています。

ここから社会に発信したいことは？

皆がナチュラルに生活している姿を発信できたらいいなと思います。ここは皆が自分らしくいられる場所なんです。利用者と支援者の壁も感じないし、障害という言葉がもたらすイメージを覆せるほどです。マイペースが強い時代に、こうして人とダイレクトに関わる環境にいられるということは、私にとっても大きな充実感に繋がっています。だから、こうして人と関わることの面白さや楽しさを伝えていければうれしいです。

療育センターが考える福祉の価値感とは？

活気に溢れたコミュニケーション空間であるということ。それに、安心して過ごせる楽しい場所でもあります。また、良い意味で刺激に溢れた場所でもあると思っています。日常的に外出の機会や人との触れ合いが少ないご利用者さんに、外出イベントや地域との交流を通じて、その世界を広げるお手伝いをしたいです。私にとっては、そういう自己実現や成長のできる場所というのも価値となっています。



支援をする中で、模索の末に手応えを感じた時には自分の成長や自己実現を感じることができる

理想的な『暮らしの在り方』とは？

仲間意識を持ち、尊重し合えること。自分と関わるすべての縁、たとえば家族や友人、もちろん職場の人など関係性は色々あるけれど、どんな関わりにも、自分と相手との可能性が秘められていますよね。もちろん中には、苦手な人や関わりが薄い人もいますが、それもひつくるめて、関わりがあるというだけで、他者意識を持たせてくれているのは確かです。だから誰に対しても、出会った意味を見出したいし、成長させてくれる存在だと思いたいです。そういうことを皆が信じられるようになれば、きっと、平和な世の中に繋がっていくんじゃないかなと思います。

療育センターの一日

Create a Calm Space...

お迎え



送迎バスや公用車にて送迎をしています。ご利用者が到着すると、職員の気合いと期待が高まり、1日の始まりをよりフレッシュに思わせてくれます。

朝の会



一日の流れを各グループで確認しています。その中で、メンバー紹介や献立発表、締めあいさつ等をご利用者の方が行っています。役割を通してご利用者の輝ける場を大切にしています。

レクリエーション

個性豊かな職員たちが、オリジナリティあふれる様々な活動を考え出します。写真上の活動は、牛乳パックで作った巨大ジェンガです。ご利用者の特性やニーズに合わせた活動を、楽しみを通して提供できたらと思っています。



昼食



医療的ケア



医療的ケアが必要なご利用者を受け入れ、医ケアを行いながらも、日常の活動に参加し、散歩や、外出などにも出かけています。たん吸引の研修を受けて資格を取得したスタッフもおり、看護師が多忙の時には医ケアの実際を担っています。



ご利用者と一対一で関われる食事タイム。楽しみながらも、ご利用者の状態に合わせた必要な医療的ケアにも対応します。

見送り



センターでの1日はあっという間に終わります。ご利用者に“明日もまたセンターに来たい”と思ってもらえるような空間を目指しています。